



ツルニチニチソウ *Vinca major* キョウチクトウ科

名古屋大学博物館友の会 NUM 友の会ニュースレター No. 74 2024 年春号

「友の会の集い」を開催します

6月29日(土) 13:30~15:00

名古屋大学博物館 2階講義室

5年ぶりに「友の会の集い」開催のお知らせです。総会では、会計報告、活動報告と今後の予定、サークル活動報告、ボランティア活動、博物館や友の会に期待することなどを話し合う予定です。

ミニコンサートもあります。

博物館コンサートで最も人気があったティエラブランカ(白い大地)が、友の会のために当日限りでメンバーを再編して演奏します。フォルクローレ(南米民族音楽)とリーダーの村瀬さんの楽しいおしゃべりをお楽しみください

曲目：コンドルは飛んで行く、花祭り、他



同封のハガキに出欠をご記入の上 5月31日(金)までにお送りください。

欠席の方は委任状に氏名の記入をお願いします。

皆様のご出席をお待ちしています。

サクラソウ
Primula sieboldii
サクラソウ科



会員随想

念願の山行

寺尾敏江

弥生の三日、晴天の朝、急遽身支度をして出かけることとする。簡単な地図のコピーを手提げに入れ、近くの駅から電車に飛び乗る。車掌さんの助けを借りながら名電赤坂駅にて下車する。駅の両側は山が連なっている、赤坂までは三、四十年前に来たことがあるが、あやしげな記憶でしかない。まずは駅の近くのコンビニで腹ごしらえをする。

さて旧街道の面影を残す東海道の赤坂の宿を歩む。旧旅籠の大橋屋で道を尋ねると・・・「この先は通行止めをしている」とのこと。三月一日から全日本ラリー選手権第一戦が三河蒲郡市を中心に行われ、宮路山登山口へは近づけない状況・・・山の方からスポーツカーらしき爆音も聞こえてくる。出鼻をくじかれるとはこのことか。

実は数年前、植物標本のボランティアを始めた頃、採集地が宮路山と記されている標本がいくつもあった。その頃に古書店で入手した岡田善敏著「東海の植物」第二集、昭和三十一年発行の書中に『宮路山の植物』という一項があり、二百余りの植物名が載せられている。

この時以来宮路山に登りたいという欲求を温めてきたのである。しかし女一人でということに躊躇があった。地元で親しまれてきた標高三六二メートルの低山。小学校の頃に授業で山に登ったりしましたよと地元の女性が語る。

気を取り直し大橋屋の雛飾りを鑑賞する。様々な資料を頂戴しこの後の計画を変更。旧東海道を御油に向け歩を進める。早春の花々を愛でつつ(樺の古木、白花のフヨウカタバミ群生など)、御油の松並木資料館に至る。館員の説明をひとり占めし展示物の松の切り株の大きさに感嘆して辞去する。国道一号を地下道で渡り御油駅に到着。春を満喫した一日となった。念願の山行きはおあずけになったが、遠くない日に実現したいと思っている。

万葉の花 その12

シキミ

三矢保永

奥山の^{しきみ}櫛が花の名のごとや しくしく君に

恋わたるなむ

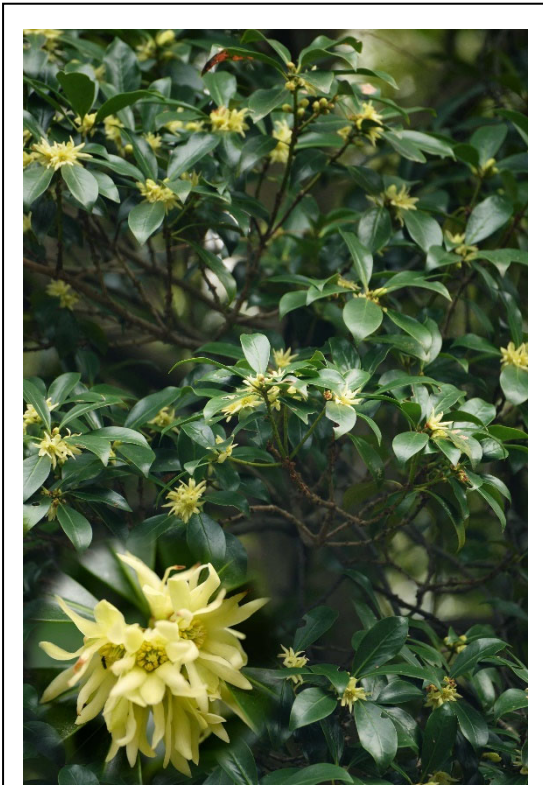
大原真人 万葉集卷二十 4476

大意 奥山に咲く櫛の花の名のように、しきりにあなたを恋い慕いつづけるでしょう。

注 “シキミ”は、しくしく（頻く頻く）に続けるための韻律的な用法で、さらには“頻き見”との掛詞になっているとの解釈もあります。古語のしくしくの意味は、頻りに（何度も繰り返す様）。この歌は、真人が女性に成り代わって詠んだもので、君はその女性の思い人（虚像）です。シキミは山中に生ずる小高木で、葉には芳香があり、実には猛毒があります。平安時代になると、仏前供花として使われるようになり、寺院や墓地に植樹され、縁起がよくない印象が定着したようです。葉を乾かして粉末にしたものが、抹香や線香の材料になり、仏花（ほとけばな）、抹香木（まっこうぎ）など仏教に関連した別称があります。仏前供花される櫛を国字で、櫛とも書きます。神前供花される櫛と絶妙な対照になっているのが、国字の妙味といえるのではないのでしょうか。

参照文献1：山田卓三、中嶋信太郎 万葉植物事典 北隆館

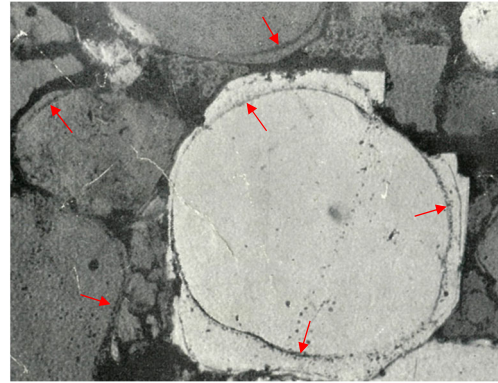
参照文献2：伊藤博 萬葉集釈注 集英社文庫ヘリテージシリーズ



撮影 写真サークル 森本一史
撮影地 東山植物園

Artist Earth 地球は芸術家 24

オーソコーツァイト (orthoquartzite) 足立 守



横幅は
約 2.5mm

上の写真はオーソコーツァイトという砂岩の顕微鏡写真です。オーソコーツァイトとは構成粒子の大部分が石英 (quartz) でできている特殊な砂岩で、かつ粒子がよく円磨されていることが大きな特徴です。硬度 7 の石英は硬くて風化に強いので、角張った石英の粒子が丸みを帯びるにはひじょうに長い時間がかかります。よく円磨された石英の砂ができる環境は安定大陸だけとされています。

円磨された石英の砂の形がよく分かるのは、ダストリング (dust ring 矢印) という石英粒子の表面に付着した細かい泥の粒子の存在です。ダストリングの外側には砂が砂岩になる過程でできた石英が丸い粒子を取り巻いて成長しています。

日本には安定大陸で形成されたオーソコーツァイトの地層は存在しません。一方、お隣の中国や朝鮮半島ではオーソコーツァイトの地層は先カンブリア時代後期の堆積岩にはよく見られます。日本各地の中生代の礫岩から見つかったオーソコーツァイトの礫は先カンブリア大陸起源と考えられています。

オーソコーツァイトは堅くて風化に強いので古くから石材として利用されてきました。代表的な例はイギリス南部のストーンヘンジです (写真は Wikipedia より)。



先史時代のストーンヘンジ遺跡に使われている石の大部分はウェールズ地方から運ばれてきたと言われていますが、当時の人は細粒緻密なオーソコーツァイトの方が粗粒な花崗岩よりも石材として優れていることを知っていたと思われます。

名古屋大学博物館だより

特別展関連イベント「球状コンクリーションのお話と標本・小物づくり」開催報告

宇治原妃美子

3月9日、特別展 関連イベント「球状コンクリーションのお話と標本・小物づくり」を開催しました。イベント前半は、博物館3階の特別展会場にて、球状コンクリーション研究者の吉田英一先生、吉田研の大学院生の片田はるかさん、浅井沙紀さんから、研究の紹介がありました。

吉田先生からは、海岸などで見つかる丸い岩を割ると保存状態が良い化石が出てくことや、秋田の男鹿半島で発見されたクジラコンクリーションなどの事例紹介がありました。また、コンクリーションの応用研究から開発された水と反応して固化する「コンクリーション化剤」の紹介もありました。浅井さんからは、名古屋港で発見されたカニコンクリーションについて、片田さんからは、南知多で発見されたハダカイワシ化石について、それぞれの特徴、電子顕微鏡などで調べた結果、X線解析で判明した元素の種類や量などについてお話がありました。

イベント後半は、実験室で小物作りをしました。宇治原から、貝殻やサメの歯などをUVレジンで閉じ込めた「透明な丸い小物づくり」の手順を説明し、吉野奈津子さん、片田さん、浅井さんがサポートをして参加者に作ってもらいました。

このイベントは小・中学生の参加が多く、その保護者も一緒に研究のお話に興味を持って耳を傾けており、コンクリーションについての質問も沢山ありました。小物作りも参加者やスタッフみんなで協力しながら、和気藹々と楽しく作りました。参加者には作った丸い小物を家を見た時に、コンクリーションのお話を思い出してもらえると良いと考えています。



小物作りをしている様子



作ったUVレジンの小物



吉田先生がコンクリーションについてお話ししている様子



浅井さん、片田さんがお話ししている様子



友の会 会費納入の報告

会計 松本晃子

3月末までの会費納入者数
177名(前納者含む)

今年度も会費を納入いただき、ありがとうございました。

今年は2名の方に新規入会いただきました。

ボラン
募集
集集

友の会では随時ボランティアを募集しています。ニュースレターの発送など、一緒に活動しませんか？

ご希望の方は友の会事務局までお問合せください。

Eメール：hakubututomo@gmail.com

野外観察園 2024 春

吉野奈津子

暑かったり寒かったりで桜もペースをつかめない春だったかもしれません。学内でも木によって咲き具合が色々でいつもより長く楽しめた気がします。観察園では久しぶりにレンプクソウの花を見かけました。園内にたくさん生えてはいるのですが、最近では葉っぱばかりで花を見ることができないでいました。フクジュソウなどと同じくスプリングエフェメラルと呼ばれる植物で、早春に花を咲かせて葉をのびし、夏に入るまでには地下部に栄養をためて地上部は枯れてしまいます。そのはかなさゆえに春一番に咲く花は一層可愛らしく感じます。レンプクソウは高さ5cmほどで花の大きさも1cm弱、地味かもしれませんが個人的には好きなのでぜひとも花を復活させて皆さんにも楽しんでいただきたいと思います。

園内の樹木がかなり大きくなり日陰が多くなったため植物の成長に影響が出てくるようになりました。初期のポタニカルアート教室の皆さんの初めての題材は観察園のハッサクでしたがこの木も調子があまりよろしくありません。思い切って3月に温室周辺の支障木の剪定をしてもらいました。まだ葉がでていませんが大分明るくなるはずです。元気になってくれることを願っています。



フクジュソウ *Adonis ramosa* キンボウゲ科



ヤマウグイスカグラ *Lonicera gracilipes* スイカズラ科



レンプクソウ *Adoxa moschatellina* ガマズミ科



ヒトリシズカ *Chloranthus quadrifolius* センリョウ科

名古屋大学博物館友の会ニュースレター 2024年4月15日発行

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付

電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X : 052-789-5896 (博物館事務室)

Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口

ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan

年会費 1000円 (4/1~3/31) 10/1~3/31 に入会した場合は500円 (次年度は1000円)

家族会員制度あり (同居の家族1名まで年会費を免除)

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会

他銀行からの振り込み 店名〇八九 (ゼロハチキユウ) 店番 (089) 当座 0166807